

# 中学生でも解ける東大大学院入試問題（133）

2015-03-07 11:28:42

こんにちは。東久留米市の学習塾塾長です。

気温が5℃と寒い日になりました。予報では月曜日まで3日間ほど悪い天気が続くようです。

さて、今回は平成25年度東大大学院工学系研究科システム創成学の入試問題です。

問題は、

「二人のプレイヤーAとBが、確率 $p$  ( $0 < p < 1$ ) で表がでるコインでゲームを行う。コインの表が出た場合はプレイヤーAの持ち点が1点加算され、Bは1点失う。コインの裏が出た場合はプレイヤーBの持ち点が1点加算され、Aは1点失う。いずれかのプレイヤーの持ち点が0になるとゲームは終了し、持ち点が残っているプレイヤーが勝者となる。プレイヤーA、Bがそれぞれ持ち点 $m$ と $n$ でゲームをスタートするとき、プレイヤーAが勝つ確率を求めよ。ただし、 $m$ と $n$ は正の整数とする。」

です。

「ギャンブラーの破産問題」と呼ばれる問題です。

プレイヤーAが勝者になる確率は、初めに持っている持ち点に依存するので、その確率を $P(m)$ とします。

ここで、1回目にコインが表の場合、Aの持ち点は $m+1$ になり、裏だった場合、 $m-1$ になります。

したがって、

$$P(m) = p P(m+1) + (1-p) P(m-1) \quad (1)$$

という漸化式が成り立ちます。

あとは、(1)の3項間漸化式を解けばお仕舞いです。

まず(1)を整理して、

$$p P(m+1) - P(m) + (1-p) P(m-1) = 0 \quad (2)$$

とします。

ここで、(2)の特性方程式

$$p x^2 - x + (1-p) = (x-1)(p x + p-1) = 0$$

の解は、1、 $(1-p)/p$ になります。

ここで、 $1 \neq (1-p)/p$ 、つまり、 $p \neq 1/2$ の場合の一般項 $P(m)$ を

$$\begin{aligned} P(m) &= A \cdot 1^m + B \cdot \left( \frac{1-p}{p} \right)^m \\ &= A + B \cdot \left( \frac{1-p}{p} \right)^m \end{aligned} \quad (3)$$

と予想します。

実際に(3)を(1)の漸化式に代入すると成立していることが判ります。

そこで初期条件を調べると、Aの持ち点が0のとき、Aが勝者になる確率は0なので

$$P(0) = 0$$

で、また、Aの持ち点が $m+n$ のとき、Aが勝者になる確率は1なので、

$$P(m+n) = 1$$

です。

これらを(3)に代入して、

$$P(0) = A + B = 0 \quad (4)$$

$$P(m+n) = A + B \cdot \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} = 1 \quad (5)$$

を得ます。

そこで(4)(5)から、

$$A = A \cdot \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} = 1$$

$$A \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} \right) = 1$$

$$A = 1 / \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} \right)$$

$$B = -1 / \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} \right)$$

となります。

これらのA、Bを(3)に代入すると、

$$\begin{aligned} P(m) &= 1 / \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} \right) - 1 / \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} \right) \cdot \left( \frac{1-p}{p} \right)^m \\ &= \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^m \right) / \left( 1 - \left( \frac{1-p}{p} \right)^{m+n} \right) \end{aligned}$$

となります。(a =  $(1-p)/p$ と置くと、 $P(m) = (1 - a^m) / (1 - a^{m+n})$ ) です)

また、 $p = 1/2$ の場合は、一般項 $P(m)$ を

$$P(m) = A + B m \quad (6)$$

と予想します。

$p = 1/2$  のとき、(1) の漸化式は、  
 $P(m) = 1/2 P(m+1) + 1/2 P(m-1)$   
となり、これに (6) を代入すると成り立っていることが判ります。

そこで初期条件  
 $P(0) = A = 0$   
 $P(m+n) = A + B(m+n) = 1$   
から、  
 $A = 0$   
 $B = 1/(m+n)$   
となり、これらを (6) に代入して、  
 $P(m) = m/(m+n)$   
となります。

以上をまとめると、  
 $p = 1/2$  のとき、  
 $P(m) = m/(m+n)$

$p \neq 1/2$  のとき、  
 $P(m) = (1 - ((1-p)/p)^m) / (1 - ((1-p)/p)^{(m+n)})$   
 $= (1 - \alpha^m) / (1 - \alpha^{(m+n)})$ 、ただし、 $\alpha = (1-p)/p$   
となり、これが答えになります。

3 項間漸化式を解く方法は、特性方程式の 2 つの解から 2 つの 2 項間漸化式を導く方法が一般的ですが、計算量が多くなるので、ここでは上記のような特性方程式の解から一般項を予想する方法を使いました。この方法は、 $n$  項間漸化式にも使えるので覚えておくと便利です。